

# 公共施設 再生考える

## 釧公大で地域経済セミナー

老朽化した公共施設の再生をテーマにした釧路公立大の地域経済セミナーが27日、同大で開かれた。首都大学東京の特任教授などを務める建築家の青木茂さんが既存の建物をできるだけ活用しつつ、耐震化した上でデザインや機能も大胆に変更して再生する「リファイニング」の有用性を紹介した。



公立大の地域経済セミナー「リファイニング」の有用性を強調する青木さん

高度経済成長期に集中的に整備した公共施設の老朽化が急速に進み、更新に財政負担の増大が懸念さ

れる中、耐用年数を伸ばす手法の長寿命化が注目されている。釧路市でも公共施設を総合的・戦略的にマネジメントする取り組みが進められており、長寿命化を実現するリファイニングを提唱する青木さんを講師に招いたセミナーを実施した。

この日は建築業者や行政の担当者など約40人が参加。青木さんは福岡県内の高齢者施設や阪神大震災で被災した病院など、自ら手掛けた建物の再生事例を紹介しながら、「民間では事業として成り立つかも重要」と増築が必要なケースも詳しく説明した。新築と

比較して「廃材は30-40%、二酸化炭素(CO2)は17%」と環境への優しさも強調。事業費も新築の60-70%にとどまることを指摘し、「30-40年ごとに建物をリファイニングすれば、欧州並みに120年使える」となどと語った。(戸田英吾)